

第17号

会報 めいおんの会

発行 平成28年12月1日

「めいおんの会」(名古屋音楽大学出身教員の会)

事務局 名古屋市緑区大清水四丁目522

TEL・FAX (052) 877-1243

発行責任者 会長 百合草 薫

「めいおんの会」益々のご発展を！

名古屋音楽大学 学長 佐藤 恵子

51年目を迎えた名古屋音楽大学を進化させ「新生名古屋音楽大学」をつくり上げたいと、4月に学長に就任いたしました。名古屋音楽大学で30年近く教員をしつつ、ピアニストとして活動をしてきた私に、多様化した学生達にどのような教育をするのが良いのか摸索する日々です。

今年、7年に一度法令で決められている大学認証評価を受けるために、教職員一同がその準備に取り組み、本学の改善点も明確になりました。「演奏できる学生達のいる大学」「演奏を大切にしている大学」「面倒見の良い大学」として発展したいと考えております。

8月に開催された「めいおんの会」に参加し、私には現場の様子を知る貴重な機会となり、卒業生の方々が、後輩達にアドバイスをしてくださっている姿を見て、とても心強く思いました。

「先生になりたい！」と、教職課程を受講している多くの学生のために「吹奏楽指導者養成プログラム」、また「小学校教諭免許状」を佛教大学通信課程特別科目等履修生として取得できる制度をつくりました。これからは学生にも世の中にも「めいおんの会」の存在をアピールし、一人でも多くの学生の夢の実現に努力したいと思います。

地域連携事業「音楽の贈り物」(12月21日)。演奏会場と聴衆を集めてくださったら、吹奏楽120名で伺います！と、ホームページで公募をいたしました。岐阜県の小学校で、低学年と高学年のために二回公演が実現します。今後、吹奏楽の授業の取り組みとして活動を続けていきたいと思っております。来年度も公募いたしますので、皆様からの応募をお待ちしております。

少子化と、音楽を専門に学びその後は？と、入学者確保に苦慮しているのが音大です。大学と卒業生、縦横の繋がりを大切にし、音楽を学び合う志を持つ「めいおんの会」の発展は、名古屋音楽大学の発展を支えてくださることと期待し、また皆様に感謝しております。皆様の益々のご活躍を心から願います。

来年8月20日開催予定の「めいおんの会」、一人でも多くの会員の皆様にお目にかかれそうですように！

平成28年度 役員・参与・顧問 ~よろしくお願ひします~

会長	百合草 薫 (名古屋・東丘小トワイライト)	会計監査	中村由美子 (名古屋・宮中)
副会長	川合 恒之 (名古屋・扇台中校長)	参与	佐藤 恵子 (名音大学長)
庶務	藤松 真人 (名古屋・駒方中教頭)	同	松下 雅人 (同音楽学部長)
同	塚寄 崇史 (名古屋・守山西中)	顧問	吉川 範行 (同教職指導室)
会計	宇佐美ほたか (名古屋・東陵中)	同	小泉 孝 (同教職指導室)

平成29年度 めいおんの会「総会・研修会・懇親会」

【日時】平成29年8月20日(日)〈予定〉 【会場】名古屋音楽大学

【講師】松下 雅人 先生 (名古屋音楽大学教授・声楽家)

研修内容については、今後お知らせいたします。ご希望の内容がありましたら、めいおんの会フェイスブック等で事務局までお知らせください。

総会・研修会・懇親会 8月21日(日) 名古屋音楽大学 B301教室(総会)・C101教室・学園食堂

◆総会では、会則に従い、会長の選出・役員委嘱を行いました。昨年度の事業報告、決算報告並びに本年度の事業計画案、予算案が承認されました。

◆研修会は、「パイプオルガンの魅力に触れよう」～見て 聴いて さわって 感じて～と題して、講師に名古屋音楽大学非常勤講師の小川有紀先生をお迎えして行いました。

研修は、大学のC101教室に設置してある、パイプオルガンを使って行いました。普段の生活ではなかなか縁がなく、大学時代も限られた学生しか触れることができなかつたパイプオルガンを前に、どきどきわくわくしながら始まりました。まずはオルガンの歴史について説明がありました。次に楽器の説明です。仕組みについては、外からは

は見えない内部をのぞきながら、丁寧に説明していただきました。また、奏法については、実際の演奏を交えながら紹介していただきました。そしていよいよ実際に体験です。曲を弾いた方も見えましたが、多くの方は旋律や和音を試していました。また、ストップによって音色が変わることも体験することができました。鍵盤のタッチと音色が聞こえるまでのつながりが、経験のない感覚で、一音出すだけでも、とても新鮮で貴重な経験になりました。特に足鍵盤で出す重厚な響きは、パイプオルガンの醍醐味を味わうことができました。続いて、小川先生の演奏です。

讃美歌や「フーガト短調」を始め、ポップスの「虹の彼方へ」をパイプオルガンで聴くことも

できました。素晴らしい演奏を間近で鑑賞した後は、パイプオルガンの伴奏で「大地讃頌」の合唱です。ピアノ伴奏とは違った、教会での祈りのような荘厳な合唱を体験することができました。◆中学校では実際に鑑賞の授業で、パイプオルガンの曲を扱います。小学校では教科書には出てきませんが、どこかで話題にできるはずです。そんな時、聞いただけの話ではなく、実際に体験したことを話すことができるのは、とても説得力があり、子どもたちの興味・関心を引き出すことにつながるはずです。明日の授業に生かすことのできる貴重な時間を過ごすことができました。

◆懇親会には、講師の小川先生と、学長の佐藤恵子先生、学部長の松下雅人先生、教職担当の柴田篤志先生、吉川範行先生、小泉孝先生にもご参加いただきました。和気あいあいとした雰囲気の中、講師の小川先生とも研修では話さなかつたお話を伺うことができました。また、長年教職に就いておられ今回初めて参加された方からの貴重な経験談や、今年新たに教職に就かれた方々からの初々しいお話を聞いたり、指導方法や抱えている課題などについて情報交換をしたりして、有意義な時間を過ごすことができました。



【編集後記】

◆小川先生は、中高一貫教育校でもオルガンを教えて見えます。「虹の彼方へ」は、生徒が音色等を工夫したもので演奏されました。中高生を指導されたご経験から参考になるお話を伺うこともできました。◆熱心にメモを取る姿も見られ、参加者からは、体験の大切さを実感した研修会であったとの声が多くありました。今後も体験を伴う研修を考えたいと思います。◆今年始まった母校の地域連携事業。先生方の学校でも、ぜひ来年度の芸術鑑賞に吹奏楽を検討されてみてはいかがでしょうか。(ゆ)